

震災復興
まちづくり訓練

かわら版

平成29年12月

【発行】 港区 高輪地区総合支所 協働推進課
【問合せ先】(事務局) まちづくり推進担当 電話：03-5421-7664

第1回訓練（ガイダンス）を 開催しました！

「震災復興まちづくり訓練」は、通常の防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成29年11月21日（火）、白金の丘学園ランチルームで、第1回訓練を行いました。地域の25名の方々、区職員、専門家が集まり、市古太郎先生（首都大学東京 教授）のお話を聞いて、まちの復興とはどんなことか、イメージを膨らませました。（裏面をご覧ください）



2月の第4回訓練まで、みなさんと一緒にしっかり考えていきましょう！。

第2回訓練のご案内

テーマ 震災被害をイメージして復興課題を考えよう！

日時：平成29年12月9日（土） 9：30～12：30

場所：白金の丘学園ランチルーム

内容（予定）：

- 震災で、どのような被害がどこに起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこにあるか、まちを歩いて確認します。
- 復興の重要なポイントやテーマ、復興の方針づくりなどを話し合います。

第1回訓練の様子

訓練を実施した
豊島区上池袋地区の
まち歩きの様子



市古先生の講演



神戸市の野田北部地区の実際の復興の様子を映画で見ながら、

- 都内で行われた、同様の訓練の事例と、その地区に合った復興を検討した成果。
- 港区都市計画マスタープランの「回復力のあるまち」を実現するための方針や、都の被害想定など。

等のお話しをしていただきました。

港区都市計画
マスタープラン



復興問題トレーニングをやってみました ~ “ワークショップ” ってなに？

訓練の方法である“ワークショップ”を体感しながら、当地区で被災したらどんなことに困るのか、4つの班で考えてみました。

班ごとに、なりきる家族構成と住まいの被害を決めました。

その家族が、震災1週間後、1か月後、3~6か月後に、どこにいて、どんなことに困っているか、イメージを出し合いました。



「A 古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦とネコ」が「全壊」した班

⇒時間が経つと、まちを離れて住まわざるを得ない人が出て、今までのコミュニティがどうなるか心配。等



「D マンション住まいの親子4人家族（小学生、幼児）」が「大規模半壊」した班

⇒ライフライン被害のため、実家を頼るが、1か月後頃から、子どもの教育を考えて自宅に戻るか悩みそう。等



「C 戸建住宅に住む3世代家族、祖父は町会役員」が「一部損壊」した班

⇒自宅に住み続ける。みんな協力して取り組んだり、外からの支援を受けることを考える必要がある。等



「D マンション住まいの親子4人家族（小学生、幼児）」が「全壊」した班

⇒避難所に行くしかないが、マンションの全員が入れるか不安。建物の再建については意見が割れなさそう。等



「まちの復興には、様々な人の立場も考えていくことが大切」ということを共有できたのではないのでしょうか？ 今後もそのような視点を持って検討していきましょう！